

高山波	雲根火雄男志等	耳梨與	相諍競伎	神代從	如此尙有良之
香久山は	畝火ををしと	耳梨と	相あらそひき	神代より	かくにあるらし
がぐやまは	うねびををしと	みみなしと	あひあらそひき	かみよより	かくにあるらし
香久山は	畝傍山が雄々しいと言って	耳成山と	争った	神代の時代から	こうであつたらしい
古昔母	然尙有許曾	虚蟬毛	孀乎	相格良思吉	万葉集 卷一 13 中大兄皇子
古昔も	然にあれこそ	うつせみも	孀を	あらそふらしき	
いにしへも	しかにあれこそ	うつせみも	つまを	あらそふらしき	
昔も	そうだったからこそ	今も	妻を	争っているらしい	

(作歌当時の係助詞『こそ』の結びは連体形)